

連 載

## がん予防学雑話(2) 明治時代の経済成長とライフスタイルの変化

青木 國雄

わが国の1900年(明治33年)前後の社会医学的環境について述べる前に、胃がん発生や予防と関係のある諸要因をまとめておきたい。

胃がん発生は食物と一緒に入ってくる発がん要因と直接的に関連する。例を挙げると食品自身(塩など)、食物中に含まれるもの(アミン類、サイカシン、焦げた部分など)、食物汚染物質とか、食品の分解産物などで、その他特定栄養素の過不足でも、胃がんにかかりやすい素因を高めることがある。

数多くの食品を食べていれば、発がんに抑制的に働くことが分かっているが、そうした十分な種類の食品はいつでもどこでも手に入るわけではない。つまり居住地で入手できる食品の質と量ががん発生頻度と関係する。不足分を輸(移)入品でまかなうことも可能であるがコストがかかる。

食品の流通は交通、運輸、販売法で変わるのでこの役割も大きい。食品衛生、保存食の質と量、調理方法、献立、嗜好も重要な要因である。労働内容(肉体労働の激しさ、精神的ストレスの大きさ)は摂取エネルギーと関係するし、所得(経済条件)、文化、習慣、居住条件(台所を含む)も関連がある。教育は体の発育や衛生知識、行動傾向を規定するので基本的なものと考えている。

一方人々の胃の機能も生育した地域や時代で異なる。養育のよい人々の胃は順調に発達し、機能もよく回復力も強い。一方養育が悪ければ胃の発達は悪く、機能障害を起こし易く、若年で胃がんが高い。他の臓器の不十分な発達も胃の機能により影響は与えない。こうしてみると胃がんの予防にはいろいろな方法が考えられるわけである。

\*

わが国は1700年前後(元禄時代)から食糧生産が頭打ちとなり、以降は150年間、人口は3,000万人前後で変化していない。しかし明治に入ると人口増加は著しく、内地人口は明治5年3480万、25年4051万、45年(大正1年)5058

方で20年毎に20%ずつ増加した。食糧がよりよく確保されたからである。国内では米、麦、豆、いも、野菜、果物の他牛豚鶏肉の増産が続いたことや、それでも不足する米麦、大豆、肉、砂糖などをかなりの量輸入していたのである。日用品の輸入の増加は世界一といわれるほど経済の高度成長が続いたことが背景にある。それでも食糧は十分であったわけでない。しかし西洋料理をまねた新しい献立や調理法（スキヤキ、コロッケ、カレーライス、ハヤシライス、カツドンなど）が普及したり、新しい野菜、果物が栽培、供給されたことは日本人の食生活を著しく変えた。

1900年代には栄養学的研究が日本でも盛んになり、世界的にも多くのビタミンの発見や栄養素の特性の研究が進んで、しばしばマスコミを介して伝えられていた。1920年には国立栄養研究所が設立されたことも特記すべきであろう。軍隊で新しい食生活になれた若者によって食生活文化が全国に普及していったことも見逃せない。鉄道幹線のネットは1900年前後に完成しその後も整備が進められたので、交通は便利になり、生活物質の国内での交流も盛んになった。新聞、雑誌も急増して情報伝達改革のあった時代でもある。

1900年頃から第一次産業人口が減少し始め、工場、サービス業への就業が増えた。激しい労働が減れば、大食（穀類）や多汗による塩の摂取量も少なくなるわけである。

新しい世代の人々にとっての大変化は教育の普及と考えている。小学生数は明治6年の132万人から、明治33年には468万、43年には686万と急増し、就学率は該当者の80%以上をこえるようになった。始めは教育需要も経済能力も少ないので、町で購入した教科書を貸したとの記録もあるが中退者も多かった。小学校が4年から6年に変わるのは1907年（明治40年）である。これも経済の発展と教育の重要性から変えられたことである。小学生就学の利点は、年少労働からの解放、食事の確保、学習や体育であり、未就学に比べ心身の発達がよくなったことである。初潮年齢や発育年齢の前進などの他、消化器病や若年者の前がん病変が減少し始めている。

教育の効果は、その他にも病の予防や健康への行動傾向がflexibleになる利点をもつ。

胃がんと関連するすべての変化や変革をここで述べることは出来ないが、この時代の社会・経済の大変化が、日本人の胃がん減少の素地をつくったことは確かである。第二次大戦後にはもう一段大きな食生活、社会生活革命があり、

これも経済成長と教育期間の延長などに関連している。もっとも目に見える胃がん死亡の減少は1900年出生者が60歳となった頃に明らかになったので、少なくとも60年を要したことになる。人間集団での病の変化は遅々としているといえよう。

さて、これからどのような減少傾向を辿るのであるだろうか。

(愛知がんセンター総長)